



## ようやく、集まれる「日常」が戻りました！ 各支部より、活動レポート



↑ 堺支部主催 池田奈生子さんセミナー



### 池田奈生子さん（札幌支部） AYA全曲・他 セミナー開催 【堺支部】

～コロナ禍の3年を感じさせない、  
奈生子さんの話とピアノ・西村友香子

「池田奈生子さんのサウンドだ！」  
最初の曲を演奏された時、奈生子さんの  
講座を初めて受けた日のことを思い  
出しました。コロナ禍で対面の講座は  
全く受講できず、いつものメンバーで  
集まることもなくなり、先の見通しが

立たないまま、それでも時は過ぎてい  
き、3年という月日が流れました。し  
かし、奈生子さんのお話、ピアノが始  
まると一瞬で、以前に戻ったような気  
がしました。

「AYA」は私たちの住む日本を感じ  
ることや、自然の美しさを感じること  
ができる曲集です。メロディーが美  
しい、リズムが楽しい、リアルに情景  
が浮かんでくる、いろんなことを感じ  
ることができる曲集です。私は、日本  
画や京都のお寺が好きなので、「白  
鳳」「風神」は聴かせていただいた時、  
特に感動しました。

以前発表会で、『魔法の王国』コー

ナーを作り、生徒たちと一緒に演奏し  
ました。いつも私が発表会の会場で借  
りているホールはコロナ禍の3年間、  
連弾は家族以外禁止、心から楽しむこ  
とができませんでした。「DAY AT  
THE FAIR」は、これから弾いてみた  
い曲集です。お話ししながらみんなで演  
奏してみたいです。1人で弾くのも楽  
しいですが、ピアノを習っている限り  
は、連弾の楽しさも知って欲しいと思  
います。そして「CHRISTMAS POP  
FAVORITES」は大人っぽいクリスマ  
スソング。アレンジが素敵です。同じ  
曲でもアレンジが違うと全く違う曲に  
…。コロナ禍で、大きく抜けた3年

間、でもその3年を感じさせない、奈生子さんのお話とピアノ。ギロック協会の先生方のピアノ。久しぶりにお会いするギロック協会の先生方とも少しですがお話ができ、やはりこうやって会えるって良いかと、今度…ではなく、今できる時にできることをやっていきたいと再確認。普通に動き、普通に過ごせることのありがたさをとても感じた時間でした。

(道明寺支部 西村友香子)



↑仙台支部のみなさんと柏支部永澤さん



↑池田奈生子さん



↑堺支部メンバーによる連弾



↑セミナー後は美味しいランチ会



### 恒例のギロックコンサート 【仙台支部】

5月26日にギロックコンサートを開催しました。柏支部より、永澤昌江さんも参加、感激の再会でした。「ギロックコン」として、初めて利用するパトナホール。会場内での響き方やピアノの特徴を知る機会となりました。

定例会では、引き続き「世界」「休日」をテーマに、そして、ブルグミュラーの2台用・連弾用の、数種類の楽譜を持ち寄って、皆で弾き合いをしています。  
(小野寺朋子)



↑長崎ギロックコンサート



↑長崎ギロックコンサート・講師演奏の様子



### ギロックコンサートを開催！ 【長崎支部】

4月22日に長崎支部主催で、「ギロックコンサート」を開催しました。当初の見込みより多い65人の方々にご参加頂き、ギロック、ギロックファミリーの曲の中から、皆さんの好きな曲を演奏して頂きました。

保護者の方や生徒さんから、「ギロックの事を知り、ステキな曲ばかりで一日で虜になりました」など、たくさんのご感想を頂きました。

講師演奏では、ピアノ、鍵盤ハーモニカ、アルパ、カホンで「カーニバルの舞踏会」をアンサンブルしました。

アンサンブルは好評で、コンサート後、生徒さんが急に増えたというメンバーもおられました。これからも皆仲良く、楽しく、少しずつ活動を続けていきたいと思えます。  
(福田)



### 大作曲家の作品も学べる 【ロリン・ピアノ・コース】

## 【富山支部】

定例会では「ロリン・ピアノ・コース レパートリー」を弾き合っています。現在、3巻目に入り、5月は、メンデルスゾーン、ヴィラ＝ロボスなどからヒントを得た曲などを弾きました。いろいろな時代のスタイル、形式、大作曲家のイメージも学べる素敵な楽譜です。この春からは、対面での定例会に戻ったので、連弾の弾き合いも楽しんでます。池田奈生子さん「FUN！ FUN！ ピアノステージ」はアレンジも素敵でうっとりします。年齢の大きな生徒と弾いて楽しむのもいいかもね、と意見も出ました。

次回もまた、何か新しい発見があるかもと、楽しみです。（室井晴美）



## 25周年を迎える札幌支部 【札幌支部】

今年、25周年を迎える札幌支部では、「ピアノピースコレクション1」と、グレンダの「3つのジャズ組曲」に取り組んでいます。2月から完全な対面友の会が始まり、生のピアノ演奏を聴くこと、皆さんと話し合い出来ることが本当に嬉しく、毎月楽しく集まっています。5月は2台ピアノのレッスンルームを借りて「リオのカーニバル」を弾き合いました。

3年前に企画し、コロナ禍で中断していた、札幌藻岩山にある自然に囲まれた小ホールでの「フォレストコンサート～弾こう、聴こう、みんなでギロック」を、9月3日に開催する運びとなりました。初秋を感じる札幌においての際はぜひお越し下さいませ。ギロックならどの曲でも歓迎ですよ！

（小川ひとみ）



## 定例会で、演奏法の基本を 学び合う 【岡山支部】

岡山支部は、ギロックの音楽から少し離れて、演奏法の基本を、メンバーで同じ曲を弾きながら学んでいます。このような方向になったきっかけが、昨年の恒例のメンバーでのコンサート。回を重ね、それぞれの成果の発表の場だけにするのは勿体無く、アドバイスも勉強したいと言う思いからでした。現在はモーツァルト。何気ないフレーズを美しく弾く、とても難しいです。同じフレーズでも、皆、弾き方も音色も違い、非常に面白い、それぞれが求めている音楽を作るための練習方法は、色々なアイデアが出て、とても勉強になり、有意義な時間を過ごしています。

長年弾いてきたそれぞれの癖は、直すことは容易ではありませんが、目標が明確になると頑張れる事を身をもって体感しています。そういう気持ちが生徒たちへのレッスンにつながっているようにも思います。

私個人では、レッスンで使っているギロックの作品へのアプローチの仕方が、少し離れたところからの視点で見ることができるようになり、生徒たちが以前より伸び伸びと演奏してるように感じられています。（小林由紀子）



## ランチパーティーを開催 【京都支部】

京都支部では、4月にランチパーティーを開催しました。賀茂川沿い『きらきらひかる』というピアノが置いてあるお店で、おばんざい料理を味わった後に、それぞれお気に入りの曲を演

奏しました。皆のお気に入りのギロックは…「ウイナーワルツ」「セレナーデ」「夏の夜空の星」「コラールブレリユード」「伝説」「秋のスケッチ」「スターライト・ワルツ」など。急ぎよ決まったイベントでしたが、たくさんメンバーの参加で楽しい時間となりました。

このパーティーを区切りに、支部代表と会計が任期終了。5月から新しい体制になりました。約10年役員として、いろんな支部の方々と交流させてもらったのはとても楽しかったです。姫路のキティカフェに行ったことが、皆で出かける第一歩だったかな？と思います。これから会員同士、助け合いながら楽しく集まっていけたらと思います。（記：岩崎久枝・高橋久美子）



## 音大生ドラマーに 打楽器の奏法を学ぶ定例会 【枚方支部】

京阪枚方市駅前の大東楽器店で、カホンの叩き方や打楽器の使い方を枚方市在住の音大生ドラマーの中森史章さんに教えて頂きます。

枚方支部の定例会の中で行いますが、参加希望のギロック会員の方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

●7月10日月曜日10時半～

●参加費1000円

・お問い合わせ

090-9626-6878 杉野



## 「ギロックの休日」研究中 【市川支部】

「アクセント・オン2」の勉強を終えて、「ギロックの休日」に入り、毎

月1曲ずつを中心にゆっくりと勉強中です。  
(油井幸子)

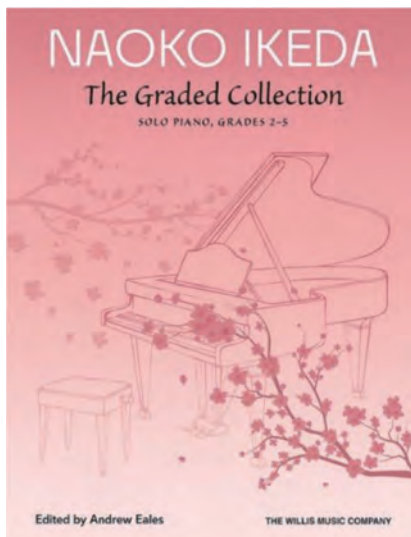


## 西江恵子さん（東京支部） 国立音楽大学セミナー

今年も11月27日（月）に、国立音楽大学にて、ギロックのセミナーを予定しています。（西江恵子）



## 池田奈生子さんの作品が イギリスで出版



イギリス、ピアノ教育システムのグレード別に分けて編集された「Graded Gillock（グレイディッド ギロック コレクション）」が大好評で、会報90号でインタビューさせて頂いた著書アンドリュー・イールズさんは、皆さんのご記憶に新しいと思いますが、このたび、池田奈生子さん（札幌支部）の作品も、「グレイディッド 池田奈生子 コレクション」として、出版されることになりました。

イールズさんは、ご自身のHPで、池田奈生子作品との出会いについて、次のように語っています。

『池田奈生子さん作品との出会いは、2022年に発表された「AYA」でした。音楽的であると同時に教育的にも大きな価値があると確信しました。クラシック音楽、ジャズ、ポップスに影響を受けた池田さんは、ウィリアム・ギロックを特に影響を受けた作曲家として挙げています。彼女の音楽にはわかりやすさ、美しさ、優雅さ、ユーモアを備えています。』

池田奈生子さんは、イールズさんのインタビューに対し、次のように応えました。

『子どもの頃は、芸術や音楽から多くの影響を受け、現在の作曲方法につながった経験の出発点だったと思います。私の両親は音楽が大好きで、家にはクラシック音楽、ポピュラーソング、ジャズ、映画音楽がありました。成長しながらさまざまな音楽ジャンルに囲まれていたことは、大人として新しい音楽を理解するのに役立ちました。

子どもの頃のもう一つの思い出は、子供向けの絵本を使った有名なクラシック音楽のレコードのコレクションです。毎日音楽を聴きながら物語を体験しました（ピーターとオオカミ、白鳥の湖、動物のカーニバルなど）。その後、父の本棚に並べられた派手な画集に目を通し、自分の子ども時代のファンタジーストーリーを作り上げました。

私は、ピアノのレッスンを受ける前の4歳から歌のレッスンも受けていたので、メロディーを聴いて歌詞の意味を学び、最後に先生が伴奏を足してくれました。メロディーにハーモニーを加えるのは驚きで、いつも楽しみにしていました。

作曲するときは、まずメロディーを思いつき、シーンに合わせてハーモニーやリズムを加えます（そこからコレクション全体のテーマやストーリーが

生まれます）。子どもの頃の経験とともに、音楽を通して美しいと思うものを再現することが多いです。

10代の頃は、ドビュッシー、ラヴェル、プーランクなど、19世紀後半から20世紀初頭のフランスの芸術と音楽に特に魅了されました。

日本の作品に関しては、北海道（明治以降に発展した地域）で育ったので、日本文化に独特の関心と憧れを持っています。日本の伝統的な音階を自分なりにアレンジし、西洋の和音進行とミックスすることで、日本の雰囲気を楽しみやすい形で演奏者に紹介したいと思っています。

また、オリジナル作品の日本語版や、初歩的な1本指の位置アレンジ集も出版しています。

作曲に興味を持ったのは、ギロックの「叙情小曲集」を演奏した後です。全調で書かれたこの曲集は、それぞれの曲がまるで1枚の絵画を見ているようで、よく使われる和音が美しいロマンティックなスタイルで調和している音に魅了されました。このギロックの作品に対する私の賞賛は、「デュエットインカラー」の作曲の原動力でした。

私に影響を与えた作曲家、演奏家、アーティストは数え切れないほどいます。パンデミックの間、私はイギリスの作曲家カール・ジェンキンス卿の作品に惹かれていることに気づきました。彼の宗教音楽は美しく、エレジー（AYA）を完成させるきっかけになりました。』

★インタビュー部分はアンドリュー・イールズさんウェブサイト

（[www.pianodao.com](http://www.pianodao.com)）より引用。楽譜について、詳しくは上記イールズさんのサイトをご覧ください。

# インタビュー☆DUO AMIS(デュオ・アミ)

越智愛さん(愛媛支部)、田所未来さん(愛媛支部)

グレンダさん新刊の連弾動画をYouTubeにアップ



田所未来さん



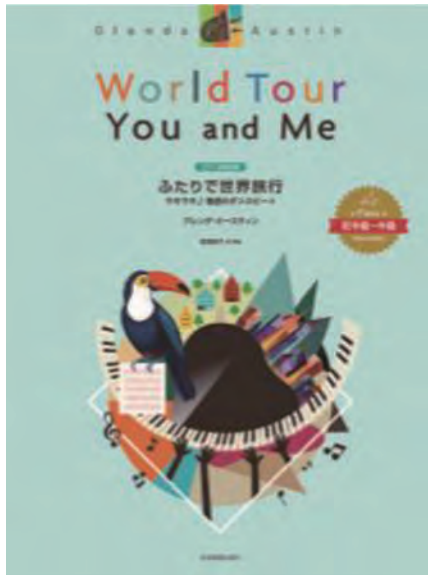
越智愛さん



DUO・AMIS

～新刊「ふたりで世界旅行」(グレンダ・オースティン)を演奏～

安田裕子以下H：全音楽譜出版社より、この4月グレンダ・オースティンの連弾曲集「ふたりで世界旅行」が発刊されました。この新刊を計画し、編集をおこなっている時、なぜかデュオ・アミの2人が、この曲集を演奏している姿が目に見えかけました。私は、グレン



グレンダ・オースティン  
「ふたりで世界旅行」全音楽譜出版社



ダの連弾作品を集めている時、今の時代にも通じる楽しいリズムばかりなので、誰もが楽しく弾ける、演奏者自身がお互いの音色を聴きながら、ひとつの音楽を2人で作り上げていく、そんな場面をイメージしました。2人は型

にはまらない無限の可能性を持っているフレッシュなピアニストたちです。だから私は、デュオ・アミを思い浮かべたのかも知れません。

私がデュオ・アミの演奏を聴いたのは、「ワクワクピアノフェスティバル」の動画でした。素直で、クリーンで、とってもナチュラルに演奏されていたのが印象に残っていました。

そこで、思い切って2人に連絡をとり、「ふたりで世界旅行」の連弾7曲を演奏してもらえないかと、お願いしました。サンバ、サルサ、ブギウギ、ジャズ、ラグタイム、タンゴなど、世界の様々なダンスビートと出会う曲集ですが、楽譜を手にとった人が、どんなふうに弾けば良いのかと、思われることがあるのでは?と思いました。だから、これらの曲を録画して、YouTubeにアップしてもらい、皆さんが選曲する時、演奏する時、役に立てたらいいなと思いました。2～3ヶ月前には聴いたこともなかった7曲を、練習して録画するって、考えただけでも大変なことです。ボランティアにもかかわらず、2人は快く引き受けてくださいました。

～連弾を一緒に始めたきっかけ～

越智愛さん以下A：もとは、ギロック協会愛媛支部のメンバーだった、光永陽子さんに連弾のお誘いを頂いたのですが、2017年、ご病気で他界されました。陽子さんと弾くはずだった曲を

一周忌に献奏したいと思い、同じく愛媛支部のメンバーで、未来さんにお相手をお願いしたのがきっかけです。以前から、未来さんの音のニュアンスに惹かれていました。未来さんと楽しく連弾できているのは、今思えば、陽子さんからの置き土産かもしれません。

H：そんな 悲しいできごとがあったのですね、でも、そのことが未来への扉へ繋がったなんて、とてもロマンティックなお話ですね。未来さんはいかがでしょうか？

田所未来さん以下M：私は、愛さんのお人柄や演奏を最初から尊敬していたので、お声をかけて頂いてとても光栄でした。

### ～連弾の練習、 合わせるときの様子など～

H：苦手なところは、ふたりで練習している時に解決していきますか？それとも家で、ひっそりと一人で練習しますか？また、改善してほしい点など、どのように相手に伝えますか？

A：私は100パーセント2人で解決です。相手の音から受けるインスピレーションにすごく助けられます。

M：曲想や、タッチについては、ふたりで練習している時に解決していくことが多く、運指が難しくすぐには弾けない所は、家でひっそり練習します。

A：未来さんのキャリアと技術に敬意を持っていますし、もし自分が思う弾き方と違っているところがあっても音楽に正解はないからそういう弾き方もあるのかもしれないと思っています。ただ、初めのころはそう思って言わなかったことも、徐々に、とりあえず言ってみるようになってきました。口にするだけで、お互いが深く考えるきっかけになっているような気がするからです。

M：愛さんはいつでも素敵に弾かれるので、改善してほしいと私が思うことがほぼないのですが、ここをこう弾いていたけど、こういう風に変えようか？等の相談を受けた時には、はっきりと好みをお伝えしています。

H：お互い、正直に話し合えるって素敵ですね！これが 長い間一緒に連弾を続ける秘訣かもしれません。

A：特に長い間続けようと思ってきたわけではなく、1曲終わったらまた次に弾きたい曲があって、それが終わったらまた次、というように、ただ楽しくて弾き続けてきました。今も弾きたい楽譜がたくさん待っています。ギロックの連弾作品では「公園で遊ぼう」を未来さんと弾いたことがあります。情景が浮かびやすく、とても楽しかったです。

年に2～3回、私の教室の発表会の講師演奏として発表してきたので、聴いていただける場があるというのもモチベーションになっています。

M：私も演奏発表の場がコンスタントにあるので、常に目標を持ちながら楽しく続けてこられたと思っています。演奏を楽しみに応援して下さる仲間がいることも励みになっています。

### ～新刊「ふたりで世界旅行」について～

H：ところで、「ふたりで世界旅行」の中で一番好きだった曲、あるいは大変だった曲はありますか？

A：好きな曲は「トゥキャン・タンゴ」です。まず楽譜通りに弾いてみたらとてもクラシック的な演奏になってしまったのですが、安田先生からアドバイスをいただいて、音のエネルギーの方向や楽譜には書いていない「間」の作り方を研究していくうちに少しずつタンゴらしくなっていく過程が勉強

にもなり楽しかったです。

M：どの曲も楽しさ、美しさがあって、選ぶのが難しいのですが、「ブラボー・ブラジリア！」が切なさもあってかっこよくて大好きです。世界の様々なジャンルの音楽、リズムに出会い、私は訪れたことのない土地ばかりですが、旅をしている気分になりながら弾けたことが楽しかったです。

A：私が難しかったのは「ロッキン・ラグタイム・ブギ」です。まず、左手のウォーキングベースを同じ音質の音で正確に刻むことが難しく、ついつい歌いたくなって不必要な抑揚をつけて、気を抜くとテンポや音質がすぐに変ってしまいました。指で弾こうとせず、脱力して腕を落とす感じで弾くと、わりとうまくいきました。そして、この曲の一番難しかったところは最初の2小節でした。3拍目がダウン、というリズムに聴こえるように弾けなくて、随分苦しみました。2人でメロディーを歌いながら踊ってみて…。歌っているうちに「ナナナナ～ナナナナ～」と飛び跳ねながら出てくるお笑い芸人を思い出して、大笑いしたこともありました。ビートの感じ次第で、同じテンポで弾いても引きずられているようになり、逆に焦っているように聴こえたりするので、難しいけれど、それがダンスビートの楽しさでもあると思いました。

M：私が、苦労したのは「バイエルンの休日」です。3/4拍子でクラシックのワルツのようになってしまいやすく、また、のどかで気楽な雰囲気を出すのが難しく、弾いているうちにどんどん正解が分からなくなってしまいました。が、フォークダンスやバイエルンの風景をイメージしながら、最終的にはとても楽しんで弾くことが出来て、今も鼻歌するほどです。

H：曲想がクラシックとは異なります

が、気をつけたのは、どのようなことですか？

A：クラシックは、フレーズのまとまりごとにテンポの揺れが自然とできてくると思うのですが、このようなダンスの曲はとにかくテンポキープしなければならないことが難しかったです。ビートを先へ先へと流していかず、体の中で縦に刻むように気を付けました。逆に、メロディーは少し拍からずすくらい大げさに歌うというのも、最初はピッタリ合わないことが気持ち悪いような気がしました。

M：歌わせすぎようとする、クラシック的に聴こえたりしたので、スパッとした鍵盤の押さえ方を心掛けたり、テンポは速すぎず、ビート感を失わず、音楽を前に進ませる難しさを感じました。休符やシンコペーション、また、長い音を焦らないように頑張りました。

H：グレンダに演奏を確認してもらった時、2人がクラシック的な繊細さでリズムカルなものを生み出していると、

とっても感激していました！

「リズムの面白い曲は一般的にリズムカルなものにしようとして、とっても速く演奏したり、繊細さを忘れてしがちですが、デュオ・アミの演奏は、その両方をうまくいかしている」と言っていました。自分の曲はこんなふう

A：私たちの演奏に、グレンダさんからこのような感想を頂けるなんて本当に嬉しいです！7曲を弾き終えた今、未来さんと一緒にまさに「ふたりで世界旅行」したような幸せな気持ちです。ありがとうございます！

M：グレンダさんのコメントをありがとうございます！この曲集のすべてに楽しいリズムや美しいメロディが散りばめられていて、どう表現したらいいだろうと録画しましたが、聴いてみて、これは違うなと撃沈した回もたくさんありました。

そこから工夫して、私たちらしく楽しんで弾けたかなという時に、たくさん学びとワクワクを感じることができ、とても楽しかったです。

素晴らしい曲に出会わせていただいて、本当にありがとうございました。

H：インタビューの最後に、2人にとって音楽とは何でしょうか？

M：音楽は私の人生にとって、必要不可欠な大事なものです。

聴くことも演奏することも、自らの癒しや楽しみとなり、日々を生きていく力になっています。もっと自分らしく表現できるようになりたい、ずっと勉強していかなければ、と思っているものでもあります。

A：私は「心の旅」。

H：うわ～座布団一枚！さすが俳句も詠まれる、愛さんならではの言葉ですね！心から感謝を込めて、ありがとうございました！



もうすぐ楽しい夏休み、そして今年もWakuWaku piano Festivalの季節がやってきました！

そしてなんと！今年はまだすでにエントリーが始まっています。皆さまおなじみのギロックの数々の曲をはじめ、この会報のインタビューでもとりあげたデュオ・アミさんも弾かれていたグレンダの連弾曲集「ふたりで世界旅行ウキウキ魅惑のダンスビート」からの曲やコメントターの皆さんの作品も課題曲にたくさん選ばれています。

教則本メインの日々の練習も大切だけど、夏休みはもっと自由なメロディー、リズムに挑戦してみませんか？みなさんのチャレンジお待ちしております。

MEFO2023実行委員会一同  
詳細は同封チラシをごらんください。

WakuWakuピアノフェスティバル2023課題曲一覧

Table with columns for Solo Department (ソロ部門), Duets (連弾部門), and Ensemble Department (アンサンブル部門). Each section lists song titles, composers, and performers.

wakuwaku Piano Festival 2023 について、エントリーの仕方や動画提出などわからないことがありましたらお気軽に下記にご相談ください。

WakuWaku ピアノフェスティバル事務局 (コーラス・カンパニー内) waku2pianofestival@gmail.com  
075-415-8686 / 090-3729-4470

★2023 年度会費をお納めください。退会、住所変更はホームページのお問い合わせまでご連絡ください。

# MASA先生とHillockのチャットdeギロック！第14回

## 子どもたちへ、優しい気持ちと左手の練習～「ガラスのくつ」



Hillockこと安田裕子（以下H）：マサ先生、こんにちは！今回のチャットは、ギロックの「はじめてのギロック」に収められている「ガラスのくつ」です。私の生徒たちは「パリの花売り少女」が仕上がると「ガラスのくつ」も弾いてみたいというリクエストが多いです。



MASAこと松田昌（以下M）：「ガラスのくつ」、とても素敵な曲ですね～！ギロックは子どものためにワルツをたくさん書いていますね？「はじめてのギロック」の中だけでも、「さあ、ワルツを踊ろう」、「リトル ブラスバンド」、「おとうさんのロッキングチェア」、「パリの花売り少女」そして、この「ガラスのくつ」と、5曲もあります。子どもの初心者用の曲だからみんなハ長調ですね？曲の構造もわかりやすいし、ちょっと、分析してみましょう。まず、共通点を探してみませんか？5曲に共通なのは、3/4拍子のワルツ。他には・  
・・・



H：あ・・・5曲とも、右手が和音で、左手にメロディーがきています。



M：なるほど～！おっしゃる通り！同じワルツでも、「こどものためのアルバム」の1曲目「ウィンナー・ワルツ」は、右手の「ソドミレ～～」というメロディーで始まりますが、「はじギロ」の5曲は、全部左手メロディー、右手和音で始まるのがとても面白いです。これは、「子どもが弾き

やすいように！」というギロックの子どもたちに対する優しい気持ちと、「左手の練習になる」という気持ちだと思います。



H：そうですね、「はじめてのギロック」に収められている曲は、初心者のために書かれています。ギロックは初心者の曲を書く時、計画的に進めたんですよ。まず1年目はメロディーと伴奏を同時に弾かない曲を書いています。「さあ、ワルツを踊ろう」「パリの花売り少女」はまさにそうですね！このあと、メロディーと伴奏が同時に出てきますが、メロディーが動いても伴奏は同じ場所という曲。その後、両方が広範囲で動くもの。もっと難しくなると片方の手でメロディーと伴奏を弾くものというふうに、ギロックの音楽的な作品の裏には、こんな計画性のあるアイデアも潜んでいます！ところで「お父さんのロッキングチェア」を加えられたのはなぜでしょうか？



M：ギロックは、初心者の曲を書く時、計画的に進めた！素晴らしい情報をありがとうございます～！

（笑）確かに、「お父さんのロッキングチェア」は、ワルツではないですね～！他の4曲とは、リズムの感じ方が違う。でも、3拍子であることと、コードがCコードで、左手が動いていることが共通だと思って、入れてみました。

この5曲は、曲の始まりが全部Cコードなんだけど、左手のメロディーは、違います。そしてそれはグループ分け

ができると思います。「さあ、ワルツを踊ろう」と「パリの花売り娘」は、「ドミソ」の和音から左手が「ド→シ→ラ」と音階で下がるタイプで、根音から始まるので響きは、安定していますね。コードは「C→CM7→C6」。「リトルブラスバンド」と「おとうさんのロッキングチェア」の左手は、第5音の「ソ」からC6（シックス）の「ラ」に進み、もう一度「ソ」に戻るタイプ。「ソドミ」の柔らかい響きから始まります。

そして、「ガラスのくつ」は5曲の中で1番過激！（笑）左手の「シ」と右手の和音の下音「ド」の短2度のぶつかりから始まります。凄い！その「シド」のぶつかりは、2小節目で「ラド」に解決されます。つまり倚音「シ」が「ラ」の和声音に解決されるのですよね？

実は、3小節目も同じです。左手の「ラ」は右手の2音の下の方「シ」と「ラシ」と2度でぶつかって、4小節目で「ソシ」と3度に解決されます。ところで、今、面白いことをやってみました。この5曲の最初の4小節目、両手を同時に付点2分音符で一つの和音として弾いてみました。会員の皆さんも弾いてくださると、僕が今、お話ししていることが、わかってもらえると思います。

「ガラスのくつ」の響きの設定は素晴らしくて、奇数小節の左手の音は、右手の2音のコードの下音と2度音程でぶつかって（倚音）、次の小節で3度音程に解決されます。「キュン」とぶつかって「ホッ」とすることの繰り返しでドラマが進んでゆきます。





H：弾いてみました！とってもよくわかります。この解決がすごく心地よくて、音楽に呼吸あるいは波を感じます。マサ先生、「キュン」「ホッ」を教えてください！「ガラスの靴」初めの強烈な「キュン」「ホッ」を感じる事で、その後続くいろいろな「キュン」「ホッ」を見つけることによって、うまく表現へ導いていけるかも！と閃きました。



M：そう思います。ギロックは、冒頭の4小節左手にmfと書いていますが、実は1小節目の「シ」は倚音で「キュン」、2小節目の「ラ」は解決音で「ホッ」ですから、そこに強弱の違いが生まれるのが自然です。例えば、「シ」がmfで「ラ」がmpというように。そしてそのことによって、手首や腕の使い方フレーズに合わせ

た使い方が考えられると思います。

もう一つ、僕がこの曲で大好きな音があります。右ページ「楽しいダンス」の2段目の2小節目、スタッカートの付いた「ラ」！1段目の2小節目の「ラ」は2分音符でしたが、この「ラ」は、スタッカートとアクセントが付いていて、この曲の演奏に合わせて踊っている人の体の動きをイメージしてみると、前の2分音符の「ラ」より跳躍は高くなり、跳躍時間も長くなります。その浮遊感を味わうためには、短いスタッカートではなく長めのスタッカートにし、音量もアクセントがついているけど、逆に「フッ」と小さくしたくなります。なんかその方が、美しいダンスに見えます。



H：グッドアイデア！この「ラ」についているアクセントを意識すると重たくなるんですよね！特に2

段目のスタッカートとアクセントのついた「ラ」は、「フッ」とジャンプするどころか戦いになる生徒もいます。（笑）だからシドレミファソ（ラ）、はこのラに向かって進むエネルギーの到達点のように感じていました。フィギュアスケートなどでポーンと放り投げられ中に舞う感じですよ！だから「フッ」と小さくしたくなるアイデア頂戴致します！



M：安田先生！おかげで、「ガラスのくつ」の素晴らしさ、そしてギロックの作品の多様性と計画の深さを感じることができました。どうもありがとうございました～！



## お宝楽譜発見！作曲家・ロシェロール

### 「Valses Sentimentales」

(HAL・LEONARD社 2008/3/1)

初めて楽譜を手にして音を出してみたとき、まるでおしゃれなフランス映画のワンシーンにBGMでかかっているような、そんな印象を受けました。タイトルはフランス語と英語の両方を記載していて、ギロックのようにシンプルな譜面、音符もすっきりしています。ごちゃごちゃしていて見えにくい、わかりづらい楽譜を敬遠しがちな大人の生徒の間では、特に人気がありました。大人の生徒にとって、プライドやモチベーションを維持できる楽譜なのか、作品なのか、教本を選ぶときは、そのあたりもかなり重要で、子どもたちよりも様々なこだわりを持っているようです。ロシェロールの持つ、大人っぽい音楽性の受けも良かったです。

ロシェロールは1936年ニューオーリンズ生まれ、パリにてナディア・ブーランジェ女史に師事。コネティカット州在住。「Valses Sentimentales」は、7作品のオリジナル・ソロ楽曲が収められています。ソロ作品は、レッスンで使いやすいと思います。連弾、2台ピアノの作品も充実しています。ギロックと同じように、教育者として、作曲家として、というプロフィールのようですし、1曲1曲、教育的価値は高いと思うのですが、残念ながらオリジナル曲集の日本語版がありません。日本語版が出ない以上は、楽器店などで、一般のピアノ愛好家の目に留まる機会はほぼゼロかと思うのです…。アレンジ楽譜の日本語版、プリント楽譜での取り扱いはあるようです。ご興味のある方はWebでチェックしてみてくださいね。



(前田陽子)

## <長すぎる！編集後記 vol.5 >



### ～星の美しい季節に～

まだ肌寒さの残る4月の初めに、堺支部の菊田さんご逝去の報を伺いました。協会事務局の打ち合わせが年に数回あり、同じ事務局のメンバーとして、昨年末にもお会いしていたのですが、ご闘病中だったとのこと。直前まで、教室の発表会にも力を尽くされていらっしゃり、菊田さんの優しい笑顔を思い出しながら、どんなお気持ちで生徒さんたちと接していたのだらうと、胸が痛みました。心からご冥福をお祈りいたします。

実は、菊田さんのご訃報に接する少し前、ふたりの生徒のママたちのご訃報に、気持ちの整理がつかない日々を過ごしていました。ひとりは小学校1年生の生徒、ママはまだ20代で若く、突然の交通事故でした。3月下旬、いつものレッスンの時間に、生徒と一緒にめずらしくパパが来られて、不思議に思いながら玄関に出て、話を聞きながら頭が真っ白になり、なかなか状況が飲み込めません。確か、先週のレッスンのお迎えに来られたときは、5月に予定している教室の弾き合い会の参加費を持ってこられて・・・「よろしくお願いします」と言われて・・・。親御さんのご逝去は今までもあり、そのたびに悲しいお別れをしましたが、これほど突然に、あんなにお元気だった方が・・・と、しばらくは実感もわきませんでした。

もうひとりは昨年12月、ご病気で逝去された元生徒のママ。今、社会人になった生徒は、高校2年生の頃までレッスンに来ていました。ママと私は同世代、生徒は幼少時からずっとコンクールに参加していたので、レッスンはもちろん、コンクール会場で会うたび、ともに一喜一憂し、頑張ったという思い出もあります。「他のお子さんたちの演奏がステキすぎて（笑）、でも私は、娘のピアノ、一番好きなんですよ。」何気なくおっしゃったこの言葉が、レッスンで悩んだときの私をどれほど勇気づけてくださったか・・・お礼を言いたくても、もう会えません。

先述の小1の生徒は、家族で今後の話をしたときに、ピアノは続けたい、と話したそうです。パパと、おばあちゃんが交代で送迎をしてくださり、いつもの時間に、今まで通りレッスンに来ています。参加費を受け取った日がママとの最後になった弾き合い会は、たくさんの拍手を頂き、笑顔で演奏しました。中でも連弾の「たなばたさま」は、一番楽しく弾けたそうです。

この会報が皆さんのお手元に届く頃は、ちょうど「たなばたさま」～七夕の季節。夜空を見上げて、星になられた方たちを思い出して、今、自分が生かされていること、自分に与えられた使命、役割など、心静かに考えたいと思います。

(編集部・前田)